

2. 業務目標設定ワークショップ（上司向け、チーム向け）

<プログラム設計趣旨>

企業規模に関わらず、上位方針が組織下部まで浸透せず、各部門、各メンバーがそれぞれの解釈に基づいて業務を行う結果、期待した成果が上がらないことや、部門間のあつれきが生じることがあります。また、中小企業の場合は、管理職といえども実作業の比率が高く、社長が新事業に乗り出そうとして新たな試みを始めても、管理職はやり方が分からず、慣れ親しんだ仕事にかまけて、新規取り組みを敬遠しがちです。

企業の存続・発展のためには、こうした状況を乗り越え、社員のベクトルを新たな取り組みに向けていかなければなりません。ワークショップを通して、メンバーがなすべきことが自然と明らかとなり、また取り組みをやり遂げられる自信をもっていただくことで、経営トップの方針の確実な推進を支援します。

<目的>

管理職の会社方針への理解度を高め、それを自部門に展開する際のブレークダウンを支援するとともに、複数部門が協働して課題に取り組む必要性を認識させ、部門横断取り組みを促進すること。

<進め方>

1. 事前打ち合わせ

クライアント企業様の現状や将来の方向性、管理職の業務実態についてのヒヤリングと意見交換を行います。これに基づき、ワークショップの設計を行いご提案いたします。

2. ワークショップ実施

管理職のみ、管理職とメンバー同時参加、いずれかの形態で実施します。

「経営環境認識」、「中長期のありたい姿からの逆算」、「自部門の課題検討」、「他部門との協働による成果拡大」といったモジュールの組み合わせとなります。

<実施形態・準備事項>

事前課題や宿題も含め、1回（2～3時間）のワークショップを1～2週間程度の期間を置いて3～4回行うケース、ないしは1日（8時間）程度でやりきるケースが考えられます。後者の場合は、時間の制約から完成度が低くなる傾向にあるため、その後のブラッシュアップをされることが望ましいです（別途ご支援も可能です）。

自社のビジョンやミッションが明確でない、あるいは以前策定したが絵に描いた餅になっている、という場合は、後述する「ビジョン・ミッション・方針策定ワークショップ」を事前に実施した後に当プログラムを実施することが効果的です。